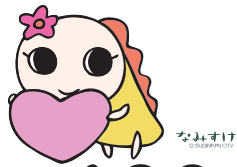




すぎなみ 教育報



No.196

平成22年3月12日

すぎなみの教育情報発信中!

教育委員会ホームページ

<http://www.kyouiku.city.suginami.tokyo.jp/>

発行

杉並区教育委員会

杉並区阿佐谷南1-15-1

☎ 3312-2111 FAX 5307-0692

学ぶ場所は、教室だけじゃない

教室での勉強、もちろん大事です。でも、学びたいのはそれだけじゃないよね。教室の外には、毎日通う通学路や、大きな通りがあって、道路沿いにはきれいな花が咲いている。近くには、いろんな人が集まるいろんな施設があって、いろんなお店がある。美しい緑もある。せっかくそのまちに生まれ、暮らしているのだから、もっとまちと仲良くしたい。まちのこと、もっと知りたい。そんな子供たちの好奇心に応える学習活動を紹介します。



まちが花いっぱいになったよ!
2009.6.18

阿佐ヶ谷駅で勇気と声を出して、まちの人たちにアサガオを配った杉並第一小の2年生。初夏の恒例となったアサガオ配りは、始まる前から行列ができるほどの人気行事です。牛乳パックで作った手作りの鉢に、心を込めた手紙を添えて。子供たちとアサガオがまちをきれいに、元気にしていきます。



危険なところはないかな?
2009.11.19

普段通り慣れている道を、違う目で見てみよう。夜になると暗いところ、人の目が行き届かないところなど、危険な場所って結構多いものです。杉並第十小の6年生が調査し、まとめた「地域安全マップ」は子供たちが自分の身を守るために役立つだけでなく、地域の方々にも発信され、地域ぐるみの安全対策を後押ししています。



おじいちゃんおばあちゃんと
なかよくなった!
2009.12.8

高井戸小の子供たちが、ハッピー高井戸デイサービスセンターを訪問し、おじいちゃん、おばあちゃんたちと楽しいひとときを過ごします。ずいずいずっころばしをしたり、楽器の演奏や歌のプレゼントをしたり。最後にみんなで歌った「ふるさと」のハーモニーは世代を超えて芽生えた友情の証です。



おみせのひみつ、
だいはっけん!
2009.9.17

和田帝釈天通りは目と鼻の先。活気あふれる商店街です。お店ではどんなものが売られているのか、どんな仕事をしているのか、和田小2年生のみんなが探検しました。レジ打ちや品出しなども体験するうちに店の人たちとも親しくなって、探検の成果は上々だったようです。



どんぐり山は宝の山だ!
2009.12.7

クヌギが生き茂るどんぐり山児童遊園での落ち葉拾い。公園をきれいにした三谷小の子供たちの次の目的は堆肥作りです。近くにある都立農芸高校の力を借りて、集めた落ち葉を燃やさず土に返します。まちの清掃、高校生との交流、環境へのいたわり。落ち葉からいろんな「いいこと」が広がっていきますね。

笑顔がまちにあふれる

教室を離れ、子供たちは自分たちの住むまちへ飛び出します。様々な場所で様々な学習活動をしていきますが、写真の中の子供たちはみな笑顔です。それは、まちをいつもよりもじっくりと眺め、考え、そして新たな発見をした喜びや、あまり話すことがなかった人たちと触れ合い、交流を深めることができた嬉しさの現れです。そしてそんな子供たちを快く迎え入れてくれた大人たちも皆笑顔です。子供たちの元気な姿で、まちはより一層、輝きを増していきます。

平成22年度就学援助のお知らせ

経済的理由で児童・生徒に義務教育を受けさせることが困難と認められる保護者に、学校で必要な経費の一部を援助します。対象：杉並区内在住で、国公立の小・中学校に通う児童・生徒の保護者のうち、次のいずれかに該当する方①生活保護を受けている②平成21年度中に生活保護が停止・廃止になった③同一生計を営む世帯全員の平成21年中の総所得金額の合計が、生活保護基準額の1.2倍以下の世帯(夫婦と児童・生徒2人の世帯の目安は400万円程度) お申し込み：4月以降に区立小・中学校と学務課就学奨励係窓口で申請書を配布します。区立小・中学校の通学者は在学校、区外の学校の通学者は同係へ申請書を提出してください。 問合せ：学務課就学奨励係

すぎなみ教育シンポジウム

「地域と協働する学校をつくる」を開催しました。

杉並区教育委員会は「地域と協働する学校づくり」を大きな目標のひとつに掲げ、地域運営学校（コミュニティ・スクール）と学校支援本部の拡充に取り組んでいます。

このたび、これまでの実践の成果を共有しつつ、現状の課題や問題点などについて共に考え、これからの地域連携のあり方について考える機会として、去る1月23日（土）に教育シンポジウムを開催しました。

当日は、約180名もの学校関係者・区民の皆さんが参加され、発表や討議に熱心に耳を傾けていました。

第一部 事例発表

三谷小・学校運営協議会
大森 肇 氏



「走りながら考え、即、実行」を基本姿勢に、無理せず、できることからコツコツと取り組んでできました。目指すは、制度がなくても自律的持続的な活動ができる学校へと発展させることです。

荻窪中・学校支援本部
田中 奈那子 氏



これからの子供達には、学校・家庭・地域がともに協力し、育てていくことが必要です。学校支援本部も大人が助け合い、支え合って運営できるように、より多くの人材に協力いただければ幸いです。

富士見丘小・学校運営協議会
学校支援本部
平田 敬子 氏



学校の支援においては、とにかくコミュニケーションが重要です。失敗したときは同じ失敗を繰り返さないようその原因を考え、成功したときはそのポイントを次に活かすよう心がけてきました。

「地域運営学校（コミュニティ・スクール）」と「学校支援本部」に関することは、教育委員会ホームページでもご覧になれます。

第二部 パネルディスカッション

<パネリスト>

永福小・学校運営協議会会長
藤井 耐 氏



学校運営協議会が、子供・保護者の意見をどのように学校運営に反映させるかが課題だと考えます。

<パネリスト>

桃井第三小・校長
倉澤 昭 氏



それぞれの地域・学校が独自性を発揮する、杉並らしい「コミュニティ・スクール」を全国に発信できればと思っています。

<コーディネーター>

三谷小・学校運営協議会会長
中竹 竜二 氏



教員や地域の方々が自由に話し合える環境を整えば、どんな問題でも解決できるのではないのでしょうか。

地域運営学校（コミュニティ・スクール）と学校支援本部の成果と課題について、立場のさまざまな4人の方に議論いただきました。

<パネリスト>

四宮小・元PTA会長
渡邊 則幸 氏



地域の方が、地域の子供達を「うちの子供」と言えるような状態が一つの理想と考えます。

<パネリスト>

富士見丘小・学校運営協議会
学校支援本部
平田 敬子 氏



学校は教育の場であり、主役は子供であることを見失ってはならないと思います。

ご来場いただいた方からの感想（アンケートより抜粋）

- ◆「中心は子供達である」ということを見失わないでほしい。すべての活動・取組がいつも子供の心に響くことを願っています。
- ◆いろいろな保護者の意見を全て学校で背負うのではなく、学校運営協議会を利用していき、教員が教育面に集中できる環境づくりを進めてほしい。
- ◆地域の関係が希薄になっている昨今、学校を通して本来の地域協力が実現できれば素晴らしいことだと思います。

問合せ：教育改革推進課

学校支援本部探訪

遠慮なく言えること — 永福南小学校支援本部の設立

その始まりには花火を打ち上げるような派手さはありません。しかし、永福南小学校支援本部の設立会は、「誰もが知り合い」という雰囲気の中で進められ、事務局長から本部の概要説明が終わると、学校支援本部に期待すること、不安なこと、予算のこと、おやじの会とのこと、PTAとのことなど、その正直な思いが参加者より寄せられました。それに対する学校支援本部や、校長・副校長の回答も自然と「腹を割った」話となり、「遠慮のない」質疑応答は終了予定時刻を越えて続いています。

「永福南小の素晴らしさは「思いやりの心」と「助け合う力」にあります。」学校支援本部長である小崎佑さん（写真中央）はこう言います。



小崎さんは平成13年度まで永福南小の校長先生だった人です。だから、永福南小の魅力は知り抜いています。

「心と心の交流をモットーとする永福南小学校にふさわしい、心の温まる支援活動を、飾らず、気取らず、「できることから」行っていきたいと思えます。」

学校支援本部が学校と地域を結ぶ架け橋として機能していくためには、それぞれが思っていることを言い合い、話し合える環境が必要です。その意味で、2月20日にスタートしたばかりの永福南小学校支援本部は、既にその土台は出来上がっているといえるのかもしれない。

ペン知る



杉並区・青梅市交流協定締結記念写真展 吉川英治展 —大衆と歩んだ作家の素顔—

「宮本武蔵」などで有名な吉川英治は大正末期から昭和初期にかけて杉並に居住し、この頃執筆した「鳴門秘帖」などの作品で一躍人気作家となりました。本展は、杉並区と青梅市の交流事業の一環として、青梅市にある吉川英治記念館の協力のもとに実施するものです。家族や文壇での交流を中心に、吉川の生涯を写真で振り返ります。また、準常設展「杉並文学館」では特集「吉川英治の杉並時代」として、直筆原稿などを展示すると同時に、吉川作品の魅力に迫る郷土史講座も開催します。詳しくは広報すぎなみ、杉並区立郷土博物館ホームページをご覧ください。 会期：2月20日（土）～4月18日（日）午前9時から午後5時（休館日は毎週月曜日、毎月第3木曜日） 観覧料：100円（中学生以下は無料） 問合せ：郷土博物館（大宮1-20-8） ☎3317-0841

「生まれること」

おなかの中の小さいのちに秘められた「生まれてくる力」。お母さんはじめ、出会えるのを心待ちにしていた家族の想い。子供たちにそれを伝えることは、生きていること、生きていくことの喜びにつながります。杉並第四小学校の全学年全クラスで行われた、日本誕生学協会を招いての「いのちの授業」では、みんながどうやって生まれてきたのかが率直に語られます。

初めて聞くことも多い
のちの話は子供たちにと
って驚きの連続です
が、後ろで一緒に聞
いていたお母さんた
ちの涙と合わせて、
深く心に刻むことが
できたようです。



「いのちをもらった。」

それだけでうれしくなった。」

「支えあうこと」

人生は楽しいことばかりではなく、時につらいことや苦しいこともあります。そんなとき、私たちはどうしたら良いのでしょうか。松ノ木小学校6年生のクラスでは、横浜市にあるめぐみ在宅クリニックの方を招いて「ホスピス医療から生きることを考える」授業を行いました。

病気と闘いながらも力強く生きようとしている人たちと向き合う経験を通じて、「人と人とが支えあう」、「自分を大事に思うこと」の大切さを学びました。

難しいテーマではありましたが、友人、先生、そして家族の存在が支えになって生きているということに改めて感じる事ができた1日でした。



「いのちに触れる」

母親のおなかに芽生えたいのち、親の愛情や願いを受けてすくすくと育ついのち、そして支えあういのち。現在各校で「いのちの教育」に関する授業が行われています。子供たちがそれらの授業で目にし、耳にするいのちはさまざまですが、そのどれもひとつとして粗末に扱っていいものはありません。いのちの大切さを理解するのはまだ数年～十数年しか生きていない子供たちにとっては易しいことではないかもしれません。でもだからこそ、繰り返し伝えていかなければならないのだと思います。

そして、誰よりもいのちの大切さを教えられるのが、家族です。ぜひ、ご家庭でもお子さんにいのちについて語りかけ、伝えてあげてください。

教育委員が行く、見る、聞く。

教育委員は、教育委員会の会議に出席するほか、学校等にも足を運び、教育の今を見聞しています。そうした教育委員の活動を順次紹介していきます。

平成17～19年度にかけて三校は第Iステージとして義務教育9年間の学びの基盤づくりを行ってきました。第IIステージではそれを土台に、(9年間の)「算数・数学」、「英語活動・英語」などの教科学習と、「キャリア教育」「生活指導」など生活の連続を目指した研究内容となっています。研究授業(公開授業)は「円周と



円の面積」(小学校算数)と「図形の性質」(中学校数学)など、その連続性が見てとれるような工夫がされています。

安本委員(写真中央)は、地域の方々といっしょに、地域のみなさんとあひさつを交わしながらすべての公開授業を見て回り、地元でもある新泉・和泉地区の小中一貫教育の通算5年間の成果を見届けていました。

安本委員は、平成22年2月18日に開催された新泉・和泉地区小中一貫教育第IIステージ(和泉中・新泉小・和泉小)の研究発表会を訪れ、公開授業と研究発表を参観しました。

(安本委員から)

小中一貫教育の取り組みも5年目になりました。

国際理解教育の一環として、英語活動を入学時から学んでいる子供たちはもう5年生です。

最初は、英語の歌を聞いたり、DVDを見ながら踊ったりという「英語に親しむ」ことから始まりましたが、今では自分の言いたいことや、好きなことを皆の前で話せるということまでできるようになりました。

英語という道具を使って、自分を表現しそれを相手に伝えるコミュニケーションが取れるようになったということでしょう。

楽しそうに授業に取り組む子供たちを見ることは、本当に幸せなひと時です。

教育委員会の動き(21年12月～22年2月)

【教育委員会開催状況】 ・定例会 5回 ・臨時会 0回 ・議案 20件 ・報告事項 10件

【主な案件】 ◎は審議、○は報告事項

◎「杉並区立小中学校適正配置計画(永福南小学校と永福小学校の統合)」(案)の策定について

◎「新泉・和泉地区小中一貫教育校設置計画(新泉小学校・和泉小学校・和泉中学校の統合)」(案)について

◎「杉並区子供読書活動推進計画」(案)について

◎平成21年度杉並区指定・登録文化財について

○平成21年度「優良PTA文部科学大臣表彰」被表彰団体の決定について

○平成21年度杉並区スポーツ栄誉表彰について

○「平成21年度東京都「公立中学校部活動の休・廃部を防止するための外部指導員導入促進補助事業」の決定について

○学校用務業務等の民間委託について

○平成22年度学校給食調理業務委託新規実施校について

○平成21年度杉並区立図書館経営評価結果について

○平成22年度杉並区学校教育職員採用候補者選考の結果について



杉並代表、晴海を 駆ける

**第1回中学生
東京駅伝大会**
平成22年
3月21日(日)



試走会で。本番は揃いのユニフォームで心とたすきをつなぎます。

区内各区立・私立中学校から選ばれた42人の精鋭が、潮風に吹かれながら晴海埠頭を駆け抜けます。日頃の部活動でのトレーニングに加え、2月からの合同練習を重ねてきた彼らは、力を合わせて男子42.195km、女子30kmを走りぬく体力と、自校・他校関係なく励ましあうチームワークを兼ね備えました。

都内区市町村の代表たち約2,100名が力の限りを尽くして競い合う初めての駅伝大会。杉並区中学校対抗駅伝とは一味違う感動が待っています。(東京都教育委員会開催事業)

スタート：女子 午前10時、男子 午後1時
会場：中央区晴海5丁目

走行コース等、詳細については東京都教育委員会のホームページ「イベントカレンダー」等をご覧ください。

車座トークは“地域の茶の間”

「車座トーク」は様々なテーマのもと、毎回話題提供者を交え、みんなで話し合う場です。毎回のテーマは、旬な話題や今大切だと思うことなど、「車座委員会（正式名称：社会教育事業推進委員会）」での話しあいをもとに決めています。

何かを始めたり、外に出たくなる3月は
次のような“地域の茶の間”を開きます。

**「地域デビューで何かが変わる
～はじめの一步はこうつかめ！」**

地域活動のヒントを得る絶好の場！実践者を囲みながらみんなで話します。

日時：3月17日(水) 午後2時～4時 会場：セシオン杉並
定員：30名(抽選)

**「遊ぼう！食べよう！話そう！
～ネイチャーゲームと焼き芋パーティー～」**

大人も子供も一緒にネイチャーゲームやバーベキューで遊んだら、ホクホクの焼き芋を食べて、住んでいるまちの人とつながる大切さやご近所のこれからについて、ワイワイ話します。

日時：3月22日(月) 午前10時～午後3時 場所：和田堀公園 バーベキュー場
定員：30名(先着順)



夜9時。“車座”終了！

教育委員会が掲げる〈自分たちで自分のまちをつくる〉人々のつながりとその力の育成には、地域の中で人と人との〈やりとり〉ができる場が必要です。

**車座
委員会
って？**

車座委員会では、地域で活動している区民(委員)12名が、年代も活動分野も超え、自らの経験をもとにとらえた地域課題を“車座”になってワイワイ話しあい、学習テーマを掘り起こすことから活動が始まります。“トライ&エラー”の精神で、委員自身も学びながら、様々な社会教育事業や地域活動に活かせるよう、「車座トーク」のような学習の場をつくり、その成果を発信しています。

「車座トーク」や「車座委員会」のことをもっと知りたい方はこちらへ！ → 問合せ：社会教育センター ☎3317-6621

杉並の歴史を語るものたち

平成21年度の
区指定文化財が決定しました



「須田家文書 附 文書収納容器一式」(6503点・有形文化財・古文書)は、江戸時代には下荻窪村の名主、明治時代以降には井荻村の地租改正掛、村会議員、助役などを勤めた旧家に保存されてきた文書類です。全体の90%が明治・大正時代のものですが、当時のこの地域の政治、社会、文化状況を解明する資料として貴重なものです。(郷土博物館蔵)



「享保十年銘梵鐘 附 鐘楼1棟」(有形文化財・工芸品)は、享保10年(1725年)に鋳物師・粉川右近藤原安継によって製作されました。区内の在来寺院の梵鐘としては、唯一江戸時代に製作された最古のものとして貴重なものです。

※松ノ木3丁目の円福寺別院にあった登録文化財「椿 椿山の墓」は新宿区の本院に移転したため、登録解除となりました。



「渡邊錠太郎及び同邸関係資料並びに柳井平八関係資料」(325点・有形文化財・歴史資料)は、昭和11年の二・二六事件の際に襲撃された、渡邊教育総監に関する資料群です。このうち渡邊邸の解体時に切り取られた壁面と、座卓には当時の弾痕が残され、この事件の舞台の一つが杉並にあったことを如実に語っています。また、この邸宅を設計した柳井も杉並の住人で、陸軍の建築技術者としての活動を示す資料として貴重なものです。(郷土博物館蔵)

私たちが住む杉並をよりよく理解する上で欠かせない文化財。杉並区ではこれらを保存、活用するため135件を登録文化財とし、そのうち特に貴重なものとして80件を指定文化財としています。

今回新たに指定された、3件の文化財のうち、「享保十年銘梵鐘」は、堀ノ内3丁目の妙法寺でいつでも見ることができます。また、渡邊錠太郎の関係資料については現在郷土博物館分館にて復元模型などともに見ることができます。(下のペン知る欄を参照)。教科書には載っていない、身近なまちの歴史を見に行ってみませんか。

問合せ：社会教育スポーツ課

ペン知る 郷土博物館分館巡回展「二・二六事件の現場 ～渡邊錠太郎邸と柳井平八～」

昨年の本館での特別展に続き開催中です。

昭和11年2月26日に起こった二・二六事件の現場の一つである荻窪にあった教育総監・渡邊錠太郎邸。この渡邊邸は平成20年2月に解体されましたが、玄関や居間、什器などの一部が区に寄贈されました。今回の展示は、当時の写真や復元模型、玄関の一部復元などで渡邊邸を紹介します。また、渡邊邸や閑院宮邸の設計者として知られる建築家柳井平八の足跡をたどります。

会期：2月20日(土)～5月16日(日) 午前9時～午後5時 休館日：毎週月曜日と第3木曜日(祝日の場合は開館し翌日休館) 観覧料：無料
場所・問合せ：郷土博物館分館(天沼3-23-1 天沼弁天池公園内) ☎5347-9801

再生紙を使用
しています